

同志社女子大学 音楽専攻科の概要（参考資料）

●アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

1. 教育・研究目的

音楽専攻科は、学部教育の基礎に立ち、専門技術研究を発展させ実践的な特別の専門課程により教授することを目的とする。

2. 人材養成の指針

音楽に関するより高度な技術と専門知識を備え、音楽をとおして社会に貢献することができる人材の養成を目的とする。

3. 求める学生像

本専攻科では上記の教育・研究目的を達成するために以下のような人物を求める。

- ①学部教育で修得した技術や知識を基盤とし、専門分野のより高度な学習と実践に努める者。
- ②社会との接点を意識して自らの知識や音楽能力のさらなる高みを目指す意欲と情熱を持つ者。

●カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽専攻科のカリキュラムは、修了証書授与の方針に掲げた修了時の到達目標を達成できる編成となっている。実技に重点を置いた実践的な教育により、音楽に関する高度な演奏技術と専門知識を備え、音楽を通して社会に貢献できる人材を育成する科目を用意している。

【体系性】

- ・個人の研究に対応した専門実技の個人レッスン科目を設置している。
- ・少人数での実技に重点を置いた実践的な実技演習科目に加え、多人数で音楽を創り上げる実技演習科目を設置している。
- ・楽曲分析のための専門知識を体得する講義・演習科目を始めとして、様々な音楽に対応するための発展的な講義・演習科目を設置している。

【教育内容】

- ・1年間を通した専門実技の個人レッスンでは、西洋音楽を基軸とした演奏技術向上のための研究を深め、より実践的な演奏法を理解し、社会を豊かにする音楽を発信できるプロフェッショナルな高い表現力と演奏技術を身に付ける。
- ・少人数での実技に重点を置いた実践的な実技演習では、多様な音楽の高度な演奏技術の知識を身に付け、芸術を創り上げる主体性をもって、音楽の分野に能動的に参画する意識を養う。
- ・多人数で音楽を創り上げる実技演習では、協調して創り上げる音楽の高い技能を養う。またその重要性を認識し、社会の中で調和を保ち、意欲的に社会貢献する態度を身に付ける。
- ・楽曲分析のための専門知識を体得する講義・演習では、作品を深く探求し総合的に解釈することができる幅広い専門知識を身に付ける。また、外国語で書かれた音楽文献を読み解くことができる語学力を身に付ける。

- ・様々な音楽に対応するための発展的な講義・演習では、社会が要求するニーズに応えられる多彩なジャンルの音楽想像力やプロデュース能力を身に付ける。
- ・中学校教諭一種免許状（音楽）及び高等学校教諭一種免許状（音楽）の取得に必要な単位を修得している者に限り、中学校教諭専修免許状（音楽）及び高等学校教諭専修免許状（音楽）の取得を可能とする。

【教育方法】

- ・専門実技については、一貫した個人レッスンによる指導を行う。その他の科目については、それぞれの特質により、講義・演習・実技といった技術・知識の体得にふさわしい形態を取る。
- ・学部教育との接続にも配慮した科目を設置することにより、専攻科学生と学部学生との交流を促進し、教育上の相乗効果を目指す。

【学修成果の測定方法】

- ・個人実技科目については、実技試験を行い、複数の教員がその成果を測定する。
- ・その他の講義・演習・実技科目については、定期試験、レポートによる評価、授業での貢献度、発表内容等、それぞれの科目の到達度を各担当教員が評価する。

●修了証書授与の方針

音楽専攻科は、全学共通の学位授与の方針に準じ、専門分野の知識・理解、関心・意欲・態度、表現・技能・能力に関して、次の基準に達している者に修了証書を授与する。

【知識・理解】

（専門実技の知識）

- ・西洋音楽を基軸とした演奏技術向上のための研究を深め、より実践的な演奏法を理解している。
- ・多様な音楽の高度な演奏技術の知識を持っている。

（作品解釈の理解）

- ・作品をより深く総合的に解釈することができる幅広い専門知識を持っている。
- ・専門文献を読み解くための外国語の知識を持っている。

【関心・意欲・態度】

（関心）

- ・音楽に関するより高度な技術と専門知識を備え、いかに社会に貢献できるかに強い関心を持っている。

（意欲）

- ・プロフェッショナルな活動を実践する高い技術を体得し、音楽の価値観をさらに高める意欲を持っている。
- ・芸術を創り上げる主体性をもって、音楽の分野に能動的に参画することに強い意欲を持っている。

（態度）

- ・自らの知識や音楽能力のさらなる高みを目指す意欲と態度を身に付けている。
- ・音楽を多人数で創り上げることで培った協調することの重要性を認識し、社会の中で調和を保ち、意欲的に社会貢献する態度を身に付けている。

【表現・技能・能力】

（専門実技の演奏技術）

- ・ 専門実技の演奏に必要な高度な技術と表現力を体得している。
- ・ 協調して創り上げる音楽の高い技能を体得している。

（音楽探求の技能）

- ・ 様々な分野の音楽の専門知識を持ち、作品を深く探求し解釈する分析力を持っている。
- ・ 外国語で書かれた音楽文献を読み解くことができる語学力を持っている。

（社会の課題への対処技術）

- ・ 社会を豊かにする音楽を発信できる高い表現力と演奏技術を持っている。
- ・ 社会が要求するニーズに応えられる多彩なジャンルの音楽創造力やプロデュース能力を持っている。

● 課程修了要件

各専攻とも、必修科目を含め合計 30 単位以上を修得すること。なお、修了要件を満たした者には、修了証書を授与する。

● 修業年限

修業年限は 1 年とする。

● 教育職員免許状の取得について

《取得できる免許状》

中学校教諭専修免許状（音楽）

高等学校教諭専修免許状（音楽）

《取得に係る基礎資格》

中学校および高等学校教諭一種免許状（音楽）を取得しているか、一種免許状を取得するために必要な単位を修得していること。そうでない場合は、音楽専攻科にて教職課程科目を履修するだけでなく、学部の科目等履修生として、中学校および高等学校教諭一種免許状を取得するために必要な科目を履修し、一種免許状の所要資格を満たす必要があります（中学校教諭免許状取得のためには、介護等体験も必要です）。

《最低必要単位数》

開講科目表の「教職」欄の○の科目より 24 単位以上を修得すること。

●開講科目表

【声楽専攻】

授業科目	期間	単位	履修方法	教職	備考
専門実技（声楽）	通1	6	必修	○	
歌曲研究A	春2	2	選択必修 4単位	○	
歌曲研究B	秋2	2		○	
オラトリオ研究A	春2	2		○	
オラトリオ研究B	秋2	2		○	
オペラ研究Ⅰ	春2	2		○	学部「オペラⅢ」と合同
オペラ研究Ⅱ	秋2	2		○	学部「オペラⅣ」と合同

【鍵盤楽器専攻】（ピアノ・オルガン・チェンバロ）

授業科目	期間	単位	履修方法	教職	備考
専門実技（鍵盤楽器）	通1	6	必修	○	
伴奏法A	春2	2	選択必修 4単位	○	
伴奏法B	秋2	2		○	
鍵盤楽器奏法研究A	春2	2		○	
鍵盤楽器奏法研究B	秋2	2		○	

【管弦打楽器専攻】

授業科目	期間	単位	履修方法	教職	備考
専門実技（管弦打楽器）	通1	6	必修	○	
管弦打楽器合奏Ⅰ	春8	3	選択	○	学部と合同
管弦打楽器合奏Ⅱ	秋8	3	選択	○	学部と合同

【各専攻共通】

授業科目	期間	単位	履修方法	教職	備考
楽曲分析Ⅰ	春2	2	必修	○	
楽曲分析Ⅱ	秋2	2	必修	○	
楽書講読Ⅰ	春2	2	必修	○	
楽書講読Ⅱ	秋2	2	必修	○	
音楽外国語Ⅰ	春2	2	必修		
音楽外国語Ⅱ	秋2	2	必修		『音楽外国語Ⅰ』を履修済であること
指揮法研究Ⅰ	春2	2	選択	○	
指揮法研究Ⅱ	秋2	2	選択	○	『指揮法研究Ⅰ』を履修済であること
京都の音・音楽Ⅰ	春2	2	選択	○	
京都の音・音楽Ⅱ	秋2	2	選択	○	
宗教音楽Ⅰ	春2	2	選択		
宗教音楽Ⅱ	秋2	2	選択		
音楽作品研究A	春2	2	選択		
音楽作品研究B	秋2	2	選択		
音楽史特講Ⅰ	春2	2	選択	○	
音楽史特講Ⅱ	秋2	2	選択	○	
室内楽Ⅰ	春1/2	1	選択		学部と合同
室内楽Ⅱ	秋1/2	1	選択		学部と合同

※ 2026年度のものであり、2027年度は変更になる可能性がある。